

未来を選択する力を身に付けるテキスト

ワークショップの進め方（110分用）

★ワークショップに必要な備品・消耗品費

- 付箋 3色（できれば「赤」、「黄色」、「緑」）、 細ペン（黒）、 模造紙
- ホワイトボード、呼び鈴等、 タイムウォッチ

★ワークショップのグループ

- 1グループ、おおよそ4-5名が望ましいです。
- 男女ともに参加する場合は、男女混合になるようにチームを分けてください。
- 多様な参加者（年齢、住んでいる地域等）で実施する場合は、できるだけ、同じ年齢層、住んでいる地域で重ならないようにチームを分けてください。

★事前学習

- ワークショップを実施する約1週間前に事前の準備の指示（宿題）を出してください。
- 宿題は、各テキストに書かれているキーワードに関連する新聞記事の「切り抜き」をノートに貼り付け、重要な箇所に線を引くなどの作業の他、関連するテレビやラジオ、インターネットニュースを見聞きするとともに、自宅や友人と、キーワードに関する話をするように指示をしてください。

★ワークショップの「ゴール」

○100分間用のワークショップの「ゴール」は、各テキストのテーマに関連する「現代社会の問題」について、主権者（有権者）として、問題に関心を持ち、データを読み解きながら、問題を発見する力を身に付けることです。また自分たちが設定した問題について、自分たちなりの「最善解」を考え、提案することができる力を身に付けることです。

○さらに、ワークショップの協働作業を通じて、①批判的思考力、②チームとして「答え」を導き出す力を養成することです。

★事後学習

○必ず「事後学習」を通じて、自分の考えやワークショップの経験を内省する機会を提供してください。

○評価については、付属の「ルーブリック」を活用し、自己評価及び第三者評価を行い、評価結果を受講生にフィードバックしてください。なお、受講者同士の評価も有効です。

時間	
0:00 - 05:00	※グループごとに着席、ワークショップの準備、事前学習課題の提出等
05:00 - 10:00	アイスブレイク 「みんなで話してみよう」のテーマについて、相互に意見交換を行う。1名の持ち時間を1分として、時間を厳守する。ファシリテーターは、1分ごとに呼び鈴を鳴らす。
10:00- 13:00	データを読み解く① 各々で、テキストのデータを読み込み、「どのような問題があるか」が「どこに」あるのかなどを黙考する。お互いに意見交換は行わない。できるだけ、誰もが見つけられない問題を発見するように促す。ファシリテーターは、2分経過したら、呼び鈴を1回、3分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
13:00- 16:00	付箋にメモする 気が付いたことを付箋1枚につき1つずつ書き出していく。黄色の付箋紙には、「良いと思ったこと」、緑の付箋紙には「問題」と思ったこと、ピンクの付箋紙には、「これからやった方がいい」と思ったことを書いていき、各人が少なくとも6枚作る。(多い分にはかまわない) ファシリテーターは、2分経過したら、呼び鈴を1回、3分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
16:00- 20:00	意見をまとめる 付箋を模造紙に貼り、色ごとに、近い意見をまとめていく。そして、その集合に、共通となるタイトルを付けていく。その模造紙を見ながら、自分たちのチームで共通に得られた意見、問題を「何が、どのように問題なのか」という形で説明できるようにまとめる。ファシリテーターは、3分経過したら、呼び鈴を1回、4分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
20:00- 25:00	発表 各チームで共通に得られた意見、問題を「何が、どのように問題なのか」という形で発表する。1チーム1分とし、時間を厳守する。ファシリテーターは、45秒経過したら、呼び鈴を1回、1分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
25:00- 30:00	データを読み解く② 各々で、テキストのデータを読み込み、「どのような問題があるか」が「どこに」あるのかなどを黙考する。お互いに意見交換は行わない。できるだけ、誰もが見つけられない問題を発見するように促す。

	ファシリテーターは、3分経過したら、呼び鈴を1回、5分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。
30:00- 33:00	<p>付箋にメモする</p> <p>気が付いたことを付箋1枚につき1つずつ書き出していく。</p> <p>黄色の付箋紙には、「良いと思ったこと」、緑の付箋紙には「問題」と思ったこと、ピンクの付箋紙には、「これからやった方がいい」と思ったことを書いていき、各人が少なくとも6枚作る。(多い分にはかまわない) ファシリテーターは、2分経過したら、呼び鈴を1回、3分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。</p>
33:00- 37:00	<p>意見をまとめる</p> <p>付箋を模造紙に貼り、色ごとに、近い意見をまとめていく。そして、その集合に、共通となるタイトルを付けていく。その模造紙を見ながら、自分たちのチームで共通に得られた意見、問題を「何が、どのように問題なのか」という形で説明できるようにまとめる。ファシリテーターは、3分経過したら、呼び鈴を1回、4分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。</p>
37:00- 42:00	<p>発表</p> <p>各チームで共通に得られた意見、問題を「何が、どのように問題なのか」という形で発表する。1チーム1分とし、時間を厳守する。ファシリテーターは、45秒経過したら、呼び鈴を1回、1分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。</p>
42:00- 52:00	<p>休憩</p>
52:00- 62:00	<p>SPT (Status quo, Problem, Try)</p> <p>ワークシートに基づきながら、チームでワークシートに記載されている視点も含めながら、SPT表を作成していく。</p> <p>ファシリテーターは、5分経過したら、呼び鈴を1回、8分経過したら呼び鈴を2回、10分経過したら呼び鈴を3回鳴らす。</p> <p>★ポイントとしては、現状に書かれた項目と課題に書かれた項目が結び付いていること、現状に書かれた項目と「やるべきこと(対策)」に書かれた項目が結び付いていること、課題に書かれた項目と「やるべきこと(対策)」が結び付いているに書かれた項目が結び付いていることです。</p> <p>つまり、現状、課題、やるべきこと(対策)が構造化されていることが重要です。</p>

<p>62:00-</p> <p>77:00</p>	<p>政策を考えよう</p> <p>ワークシートを活用して、自分たちが設定した問題（課題）を解決するための政策案を具体的に検討する。</p> <p>ファシリテーターは、5分経過したら、呼び鈴を1回、10分経過したら呼び鈴を2回、13分経過したら呼び鈴を3回、15分経過したら呼び鈴を4回鳴らす。</p> <p>★ベースは、SPT表の「課題」と「やるべきこと」に記載した内容。まずマップ中央のマスに、チームで最も課題であると思ったことを記入し、それに関連する「やるべきこと」のうち、3点をそれぞれのマスに記入します。</p> <p>☆その3点についても、それぞれ「課題」と「どうすればいいか」を、マスを中心にしながら、それぞれ書き出しながら、アイデアをブレインストーミングしていきます。ここで重要なのは、必ず「書いていく」ことです。</p> <p>★ブレインストーミングした中から、自分たちが考える最善解をマスに記載して、その内容を次のワークシートの政策プラン名の欄に、その名前を、他のグループの人が関心を持つようなタイトルに工夫して記載します。</p> <p>☆その政策プラン名に合った3本の具体策を、SPT表やマップに記載した「やるべきこと」、「どうすればいい」の内容を踏まえて考え、それぞれの具体策に名前を付けます。</p>
<p>77:00-</p> <p>93:00</p>	<p>政策案のプレゼン</p> <p>各チーム3分の時間配分で、自分たちが考えた政策を、発表する。ファシリテーターは、各チームの発表で、2分経過したら、呼び鈴を1回、3分経過したら呼び鈴を2回鳴らす。</p>
<p>93:00-</p> <p>103:00</p>	<p>模擬投票</p> <p>発表を聴いて、自分のチーム以外の発表の中で、最も良いと思ったチームを選び、投票します。また投票後は、開票を行います。</p> <p>☆選挙管理委員会と連携し、模擬投票用の投票用紙を活用し、投票箱に投票するなどの経験ができると効果は高まると考えられます。</p> <p>★投票箱等が使用できなくても、挙手ではなく、「投票」行為を経験することが重要なので工夫します。</p>
<p>103:00-</p> <p>108:00</p>	<p>講評</p> <p>教員等から、ワークショップに対する講評を行う。講評のポイントとしては、問題を的確に把握することができていたか、などの視点で、</p>

	「良いところ探し」を行っていく。
108:00- 110:00	事後学習の提示 事後学習用のレポート内容の指示を行う。また「ルーズリック」を配布し、自己評価を行うことの意味について説明する。さらに選挙期日等の紹介なども行う。